

都市構造可視化計画を合意形成 ツールとしたまちづくり

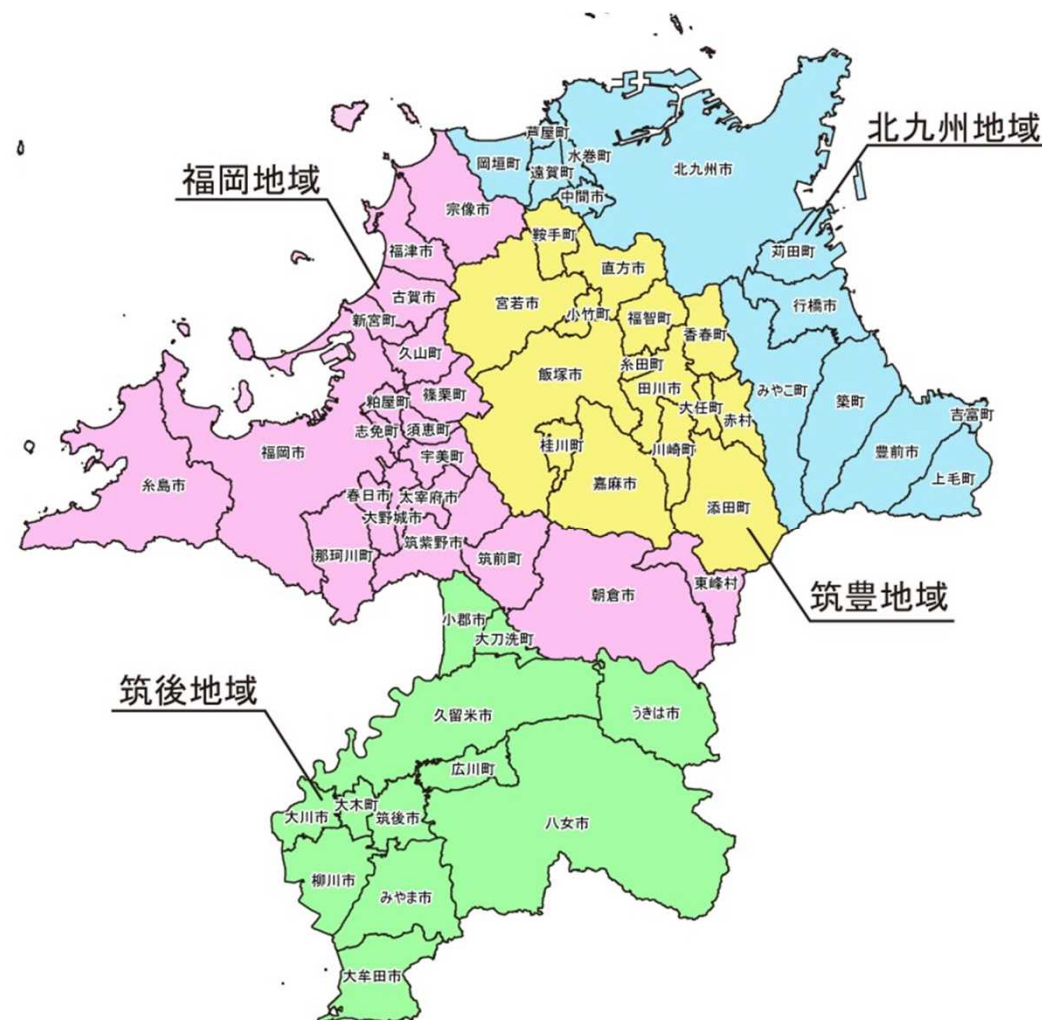
畑中 良介

元福岡県建築都市部都市計画課

福岡県の紹介

- ・人口は、5,135,214人（R2国調）、自治体数は、60市町村
- ・地理的、歴史的、経済的、社会的特性などから、福岡地域、北九州地域、筑豊地域、筑後地域の4地域に分けられます。

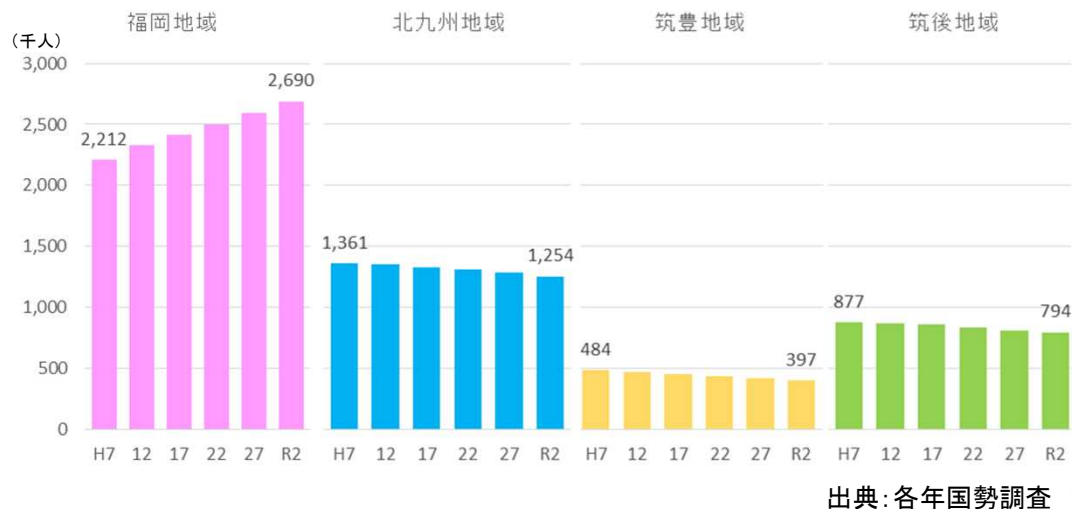
■県内の地域区分



福岡県の紹介

- ・ 県全体の人口は、25年で約20万人増加
- ・ 福岡地域は約269万人と県人口の半数以上を占め、増加傾向
- ・ その他3地域（北九州、筑豊、筑後）の人口は、減少傾向

■人口推移



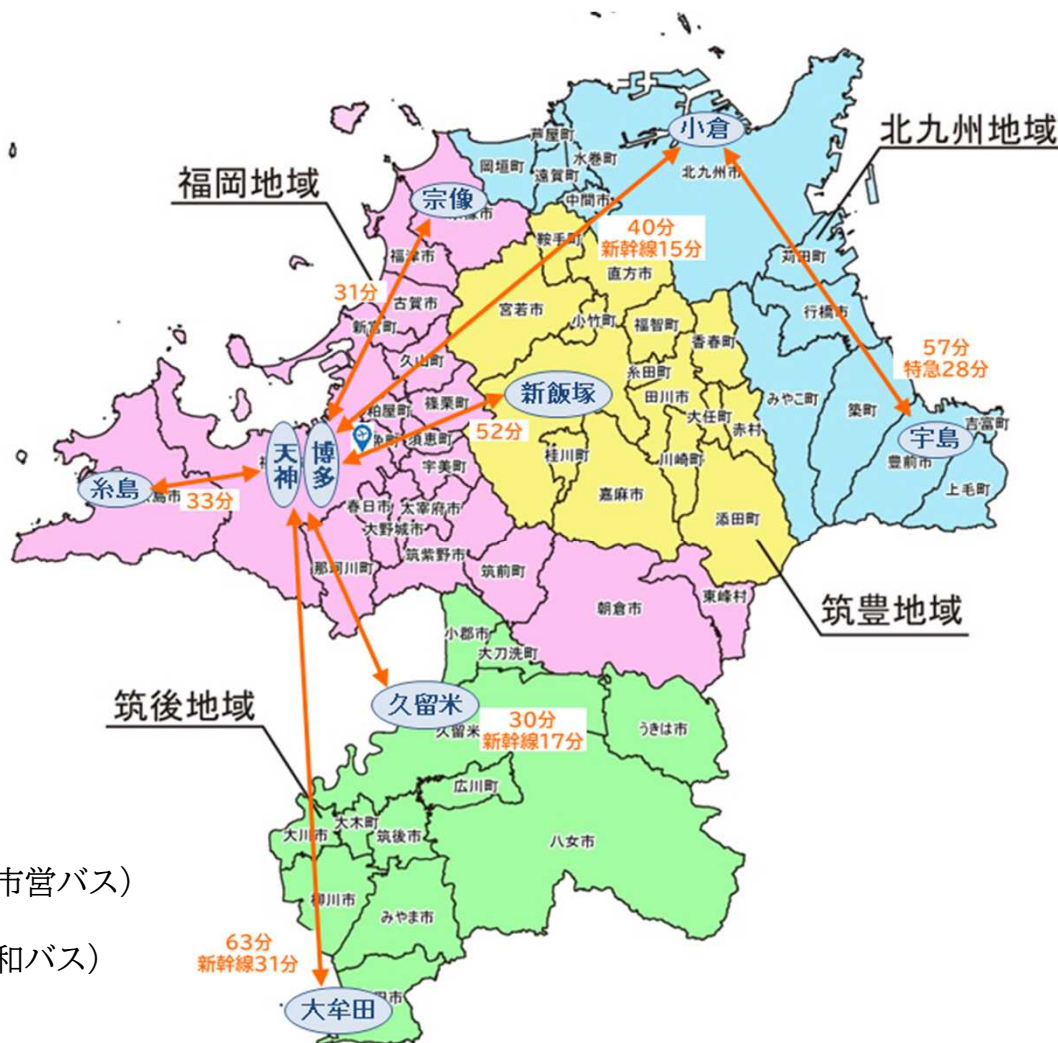
■福岡県の公共交通

福岡空港⇄博多 最短5分
福岡空港⇄天神 最短11分
天神⇄博多 最短5分

県内の交通事業者

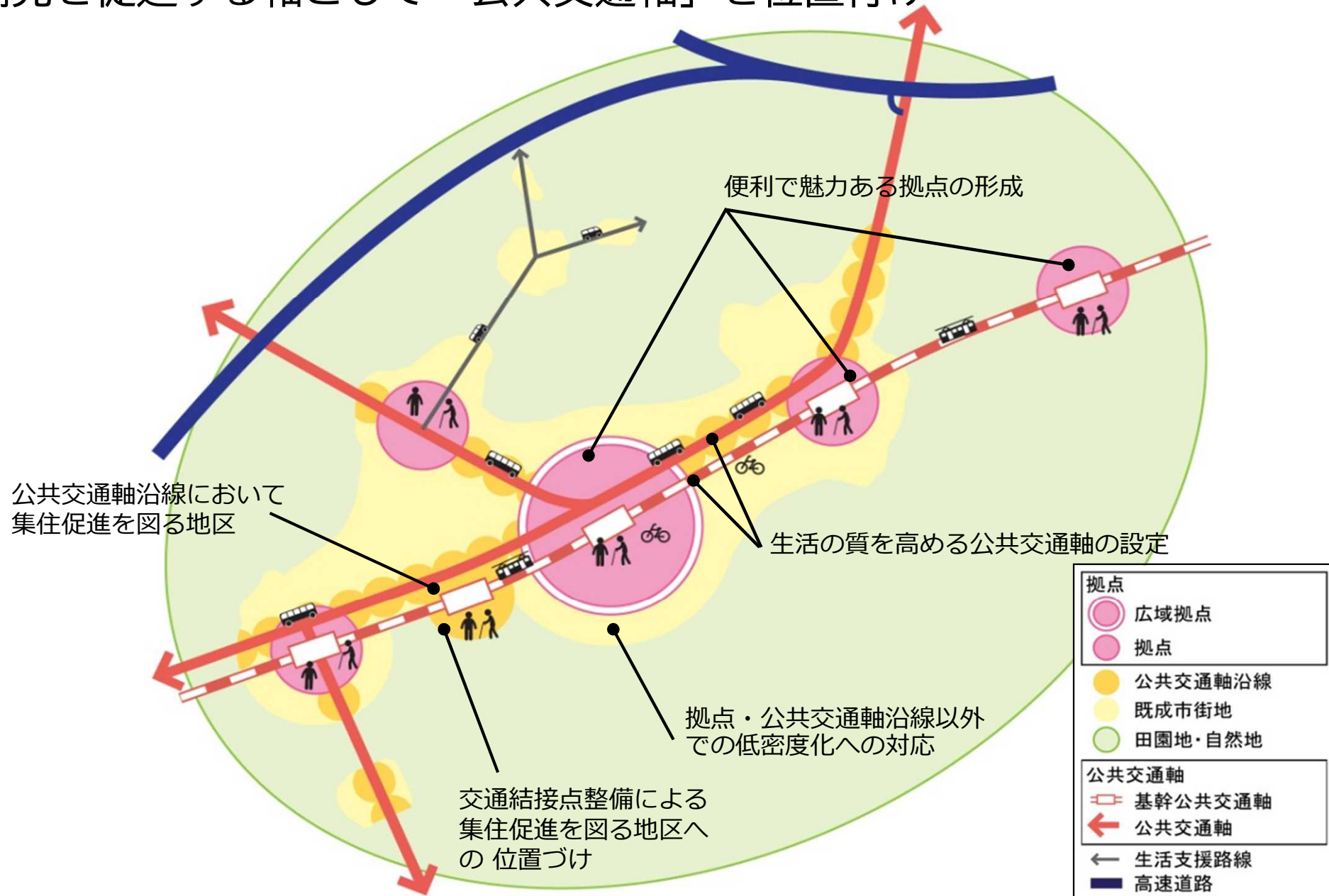
九州旅客鉄道株式会社(JR九州)
西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本)
西日本鉄道株式会社(西鉄)
筑豊電気鉄道株式会社(筑鉄)
甘木鉄道株式会社(甘鉄)
平成筑豊鉄道株式会社(平筑)
福岡市交通局(福岡市営地下鉄)
北九州高速鉄道株式会社(北九州モノレール)

北九州市交通局(北九州市営バス)
JR九州バス株式会社
昭和自動車株式会社(昭和バス)
堀川バス株式会社
甘木観光バス株式会社
太陽交通株式会社



活用事例① 福岡県の広域的なまちづくり方針の検討

都市計画基本方針において、都市の拠点における都市機能の集積及び補完を促進する軸として「公共交通軸」を位置付け



都市計画において公共交通軸を明示する効果

- **土地利用が描きやすくなる。**

（集約型の都市構造に向けた土地利用が描きやすくなる。）

- **軸沿線で行われる施策の根拠となる。**

（各種事業等（定住に対する補助等）の根拠となる。）

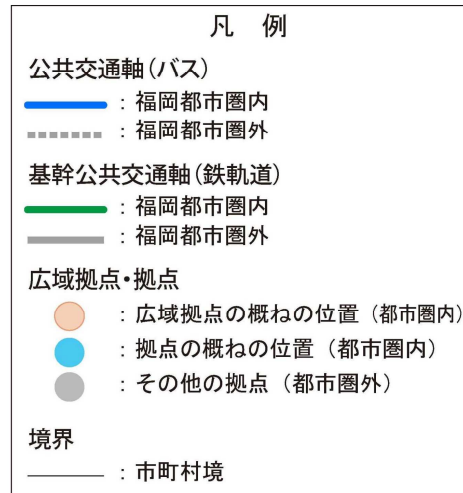
- **民間投資を誘導する。**

（集約を促進させていく地区を明示することで民間投資を誘導する。）

公共交通軸は、都市計画区域マスタープランにおいて設定

活用事例① 福岡県の広域的なまちづくり方針の検討

【都市構造の形成方針図】 福岡都市圏



活用事例① 福岡県の広域的なまちづくり方針の検討

都市計画と交通施策との関係について

①生活の質を高める
公共交通軸の設定

【都市全体では人口が減少】

＜都市計画＞

拠点と公共交通軸
沿線への集約促進（長期）

＜交通施策＞

都市の実態を見定めつつ
事業を展開（短期）

②公共交通軸沿線に集約が進み、
これに対応した公共交通事業展開により、
将来的に同じ集約型の都市像を目指す

③施設立地に伴い
公共交通需要も増加

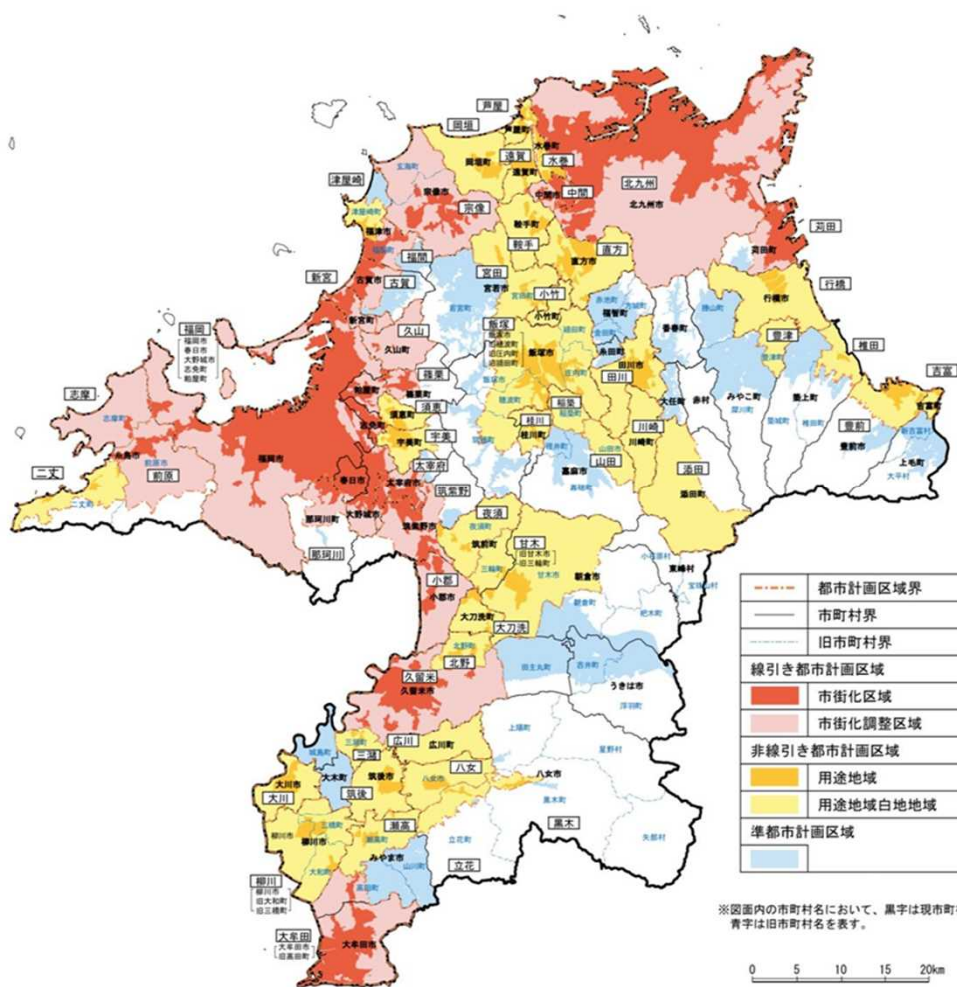
【公共交通軸沿線での人口を減少させずに
公共交通の潜在需要が保持されていく】

④運行サービス向上に伴い
機能集積が加速

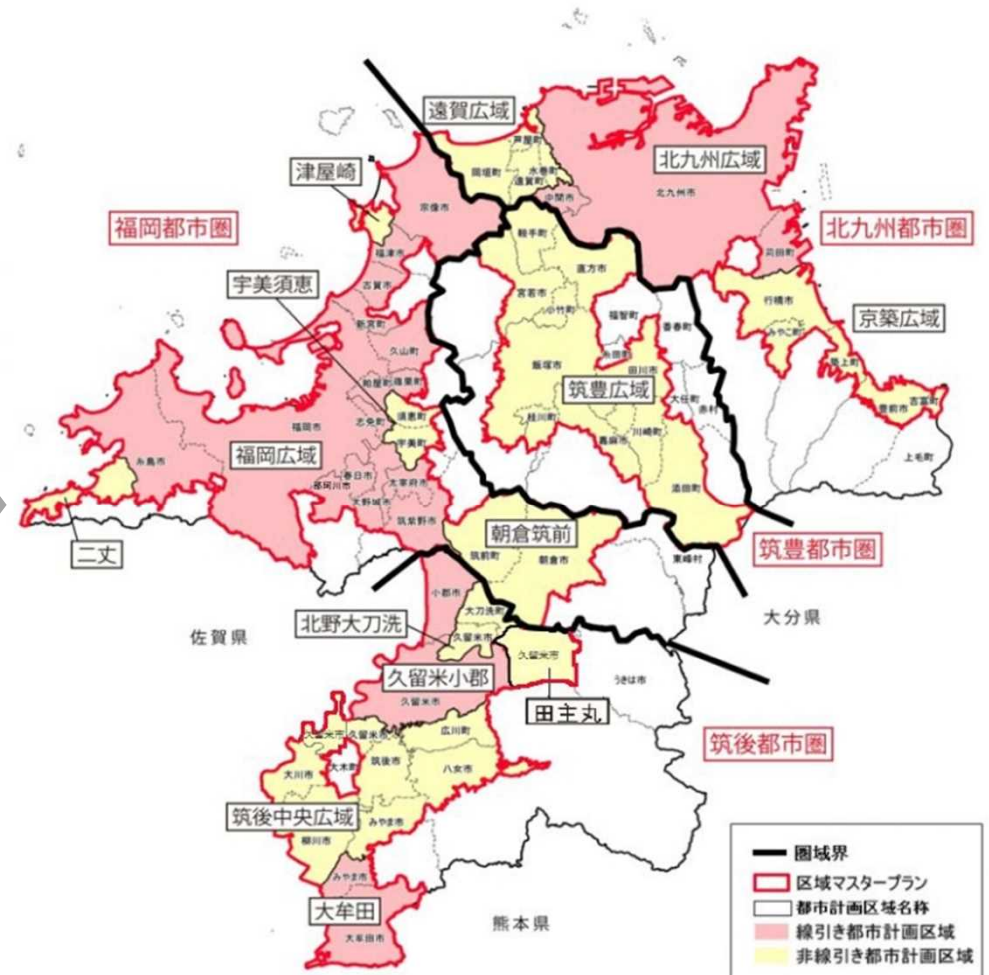
活用事例① 福岡県の広域的なまちづくり方針の検討

■ 都市計画区域マスタープランの見直し（H28）

55都市計画区域



14都市計画区域



平成30年3月30日

活用事例② 広域連携まちづくりの取組み

複数市町村の連携による勉強会等において、都市構造可視化計画を活用

- － 市町村相互の共通認識の醸成にも有効であることを確認
- － 他市町村も含んだ広域的な都市構造の把握にも有効であることを確認

■ 福岡県まちづくり事業連絡会議

市町村が広域的に連携して、まちづくりについて
政策立案を試行する場

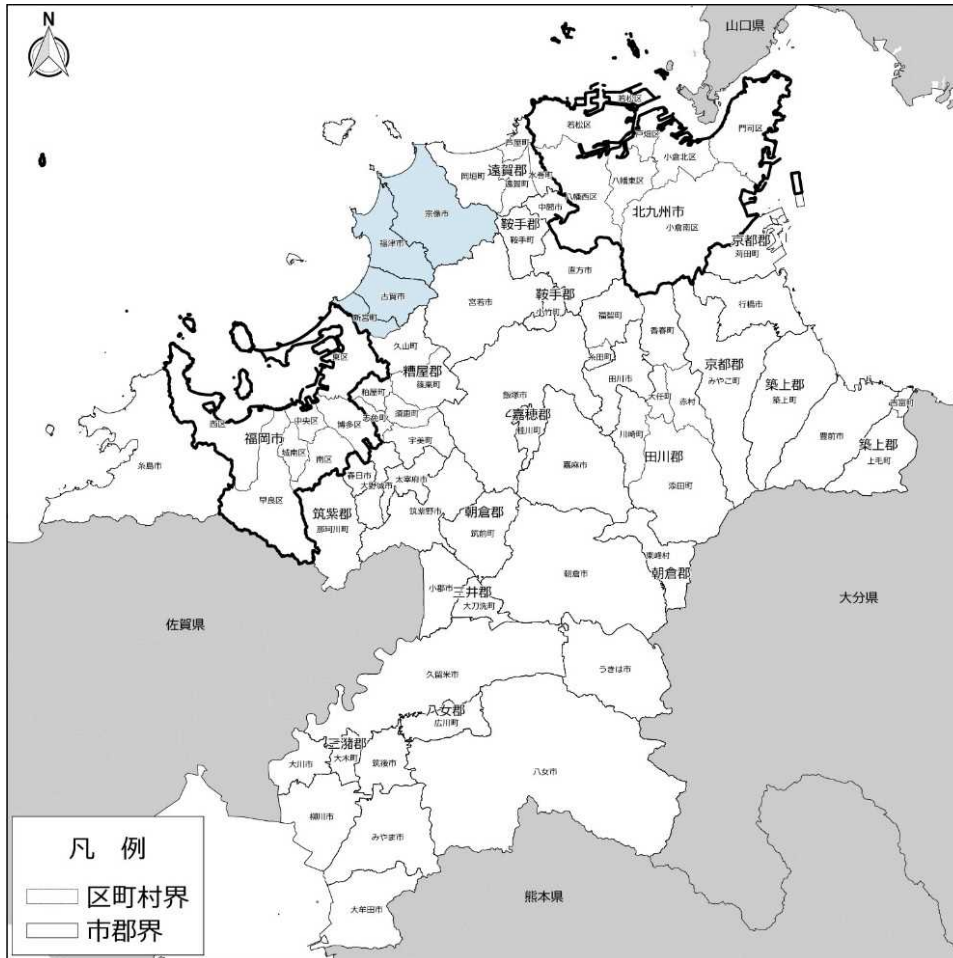
- ・ しこふむ（新宮・古賀・福津・宗像）圏域
（3市1町）計4回開催
- ・ 北九州、遠賀・中間、直方・鞍手、嘉飯圏域
（6市7町）計2回開催
- ・ 糟屋中南部、福岡市圏域
（1市3町）計2回開催
- ・ 福岡市南部西鉄沿線圏域
（5市） 計1回開催



活用事例② 広域連携まちづくりの取組み

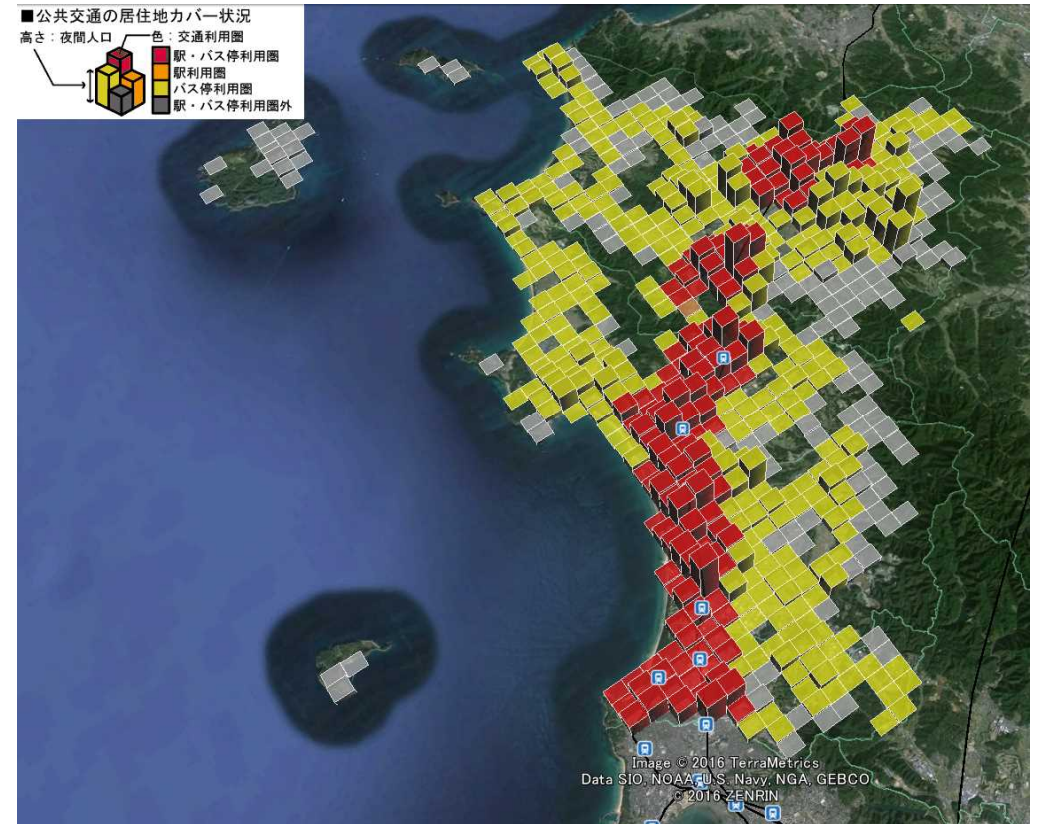
しこふむ(新宮・古賀・福津・宗像)圏域

○ 位置図



○ 都市構造可視化計画

■ 公共交通の居住地カバー状況



活用事例② 広域連携まちづくりの取り組み

しこふむ(新宮・古賀・福津・宗像)圏域

■会議の目的

福岡・北九州両政令都市の中間に位置し、玄界灘に面する海岸線沿いで会議開催前から繋がりのある「しこふむ」地域では、かつてベッドタウンとして開発された団地の再生や都市機能(医療、福祉、商業)や行政サービスの立地状況を見直すという共通の課題があります

これら共通の課題に対応するために、国道3号、国道495号、JR鹿児島本線を軸として、各市町の連携を更に強化することで、福岡市近郊の**他のベッドタウンに打ち勝つための取り組み方策**を検討

【対象市町】

(3市1町)
新宮町、古賀市、
福津市、宗像市

【開催経緯】

第1回 H27.3.2 (28名参加)
第2回 H27.3.30 (27名参加)
第3回 H27.7.30 (26名参加)
第4回 H28.1.27 (27名参加)

(討議テーマ)

- わがまちにほしい機能
- 圏域の強み、弱みを見つける
- 圏域連携方策のテーマを決める
- 連携方策を考える

■テーマ毎の主な意見等

【テーマ:観光資源を活用した連携を考える】

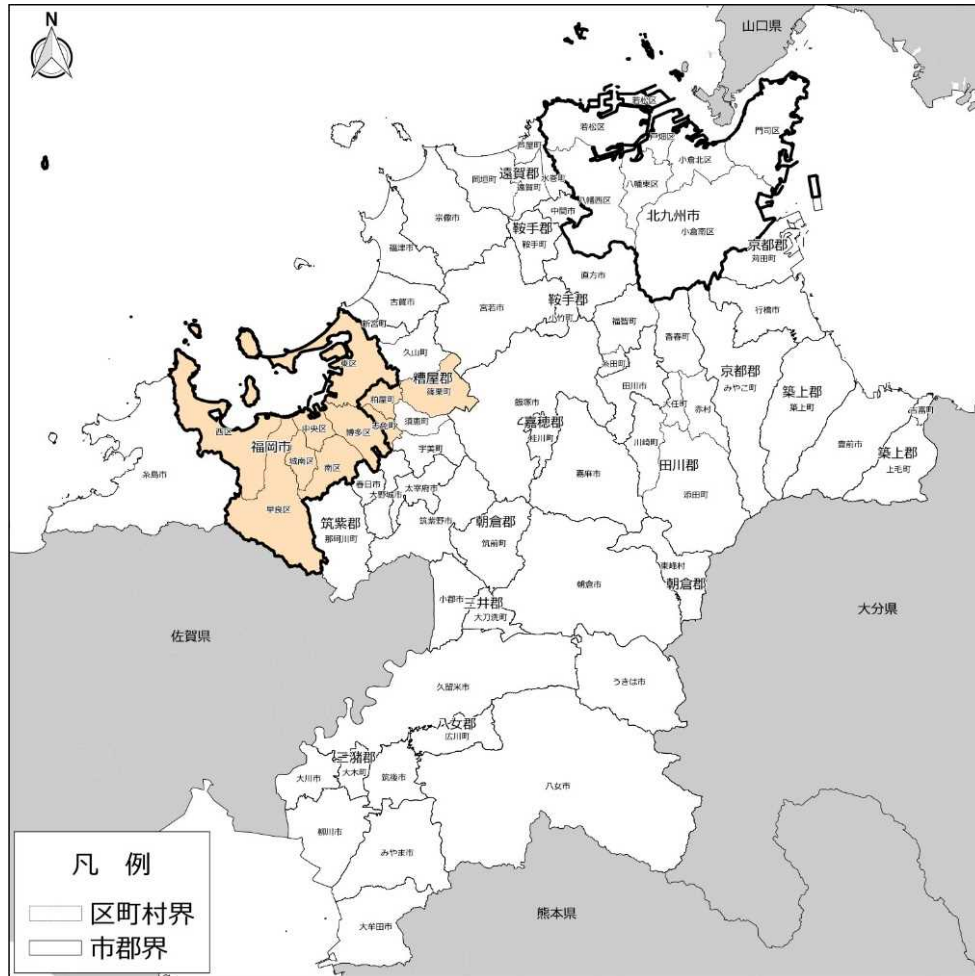


圏域にある観光地や主要なスポットをめぐるドライブルートなど検討し、圏域内外の人の流れを創り出し連携に活用する。

活用事例② 広域連携まちづくりの取組み

糟屋中南部、福岡市圏域

○ 位置図



○ 都市構造可視化計画

■ 公共交通の居住地カバー状況



の居住地カバー状況

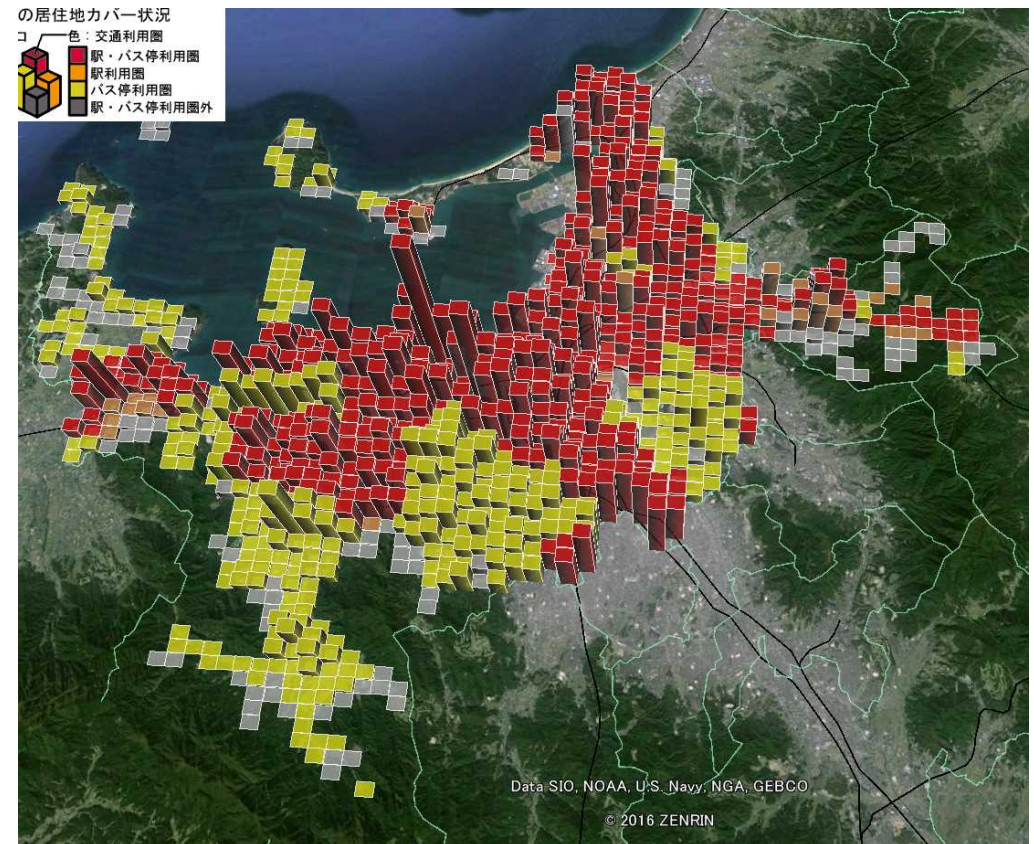
色：交通利用圏

駅・バス停利用圏

駅利用圏

バス停利用圏

駅・バス停利用圏外



活用事例② 広域連携まちづくりの取組み

糟屋中南部、福岡市圏域

■会議の目的

臨海部やインターチェンジ周辺で物流・工業地が広がりを見せ、鉄道や基幹道路沿線を中心に市街化が進行しており、今後のまちづくりが期待されている

住民生活を支える利便性の高い都市機能を有したまちづくりが必要

今後の具体のプロジェクト(都市再生整備計画事業)への展開として、まちづくりのストーリー構築や都市分析結果の活用(目標設定等)

【対象市町】

(1市3町)
福岡市、粕屋町、
志免町、篠栗町

【開催経緯】

第1回 H27.2.24 (24名参加)

第2回 H28.2.16 (28名参加)

(討議テーマ)

○住みやすいまちをつくるために
必要なもの

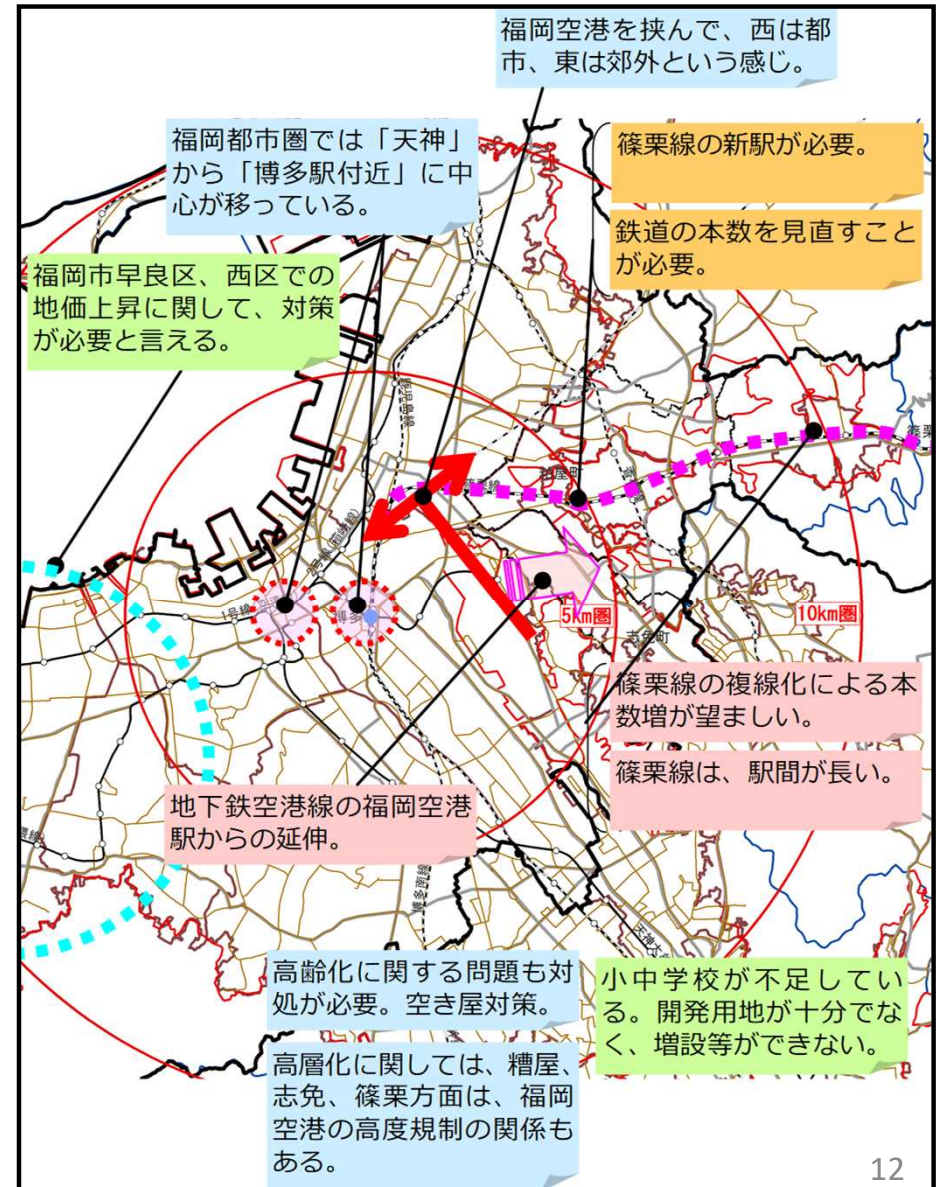
○移動しやすいまちにするために
必要なもの

○わがまちの強み・弱みを見つける

■テーマ毎の主な意見等

【テーマ:住みやすいまちをつくるために必要なもの】

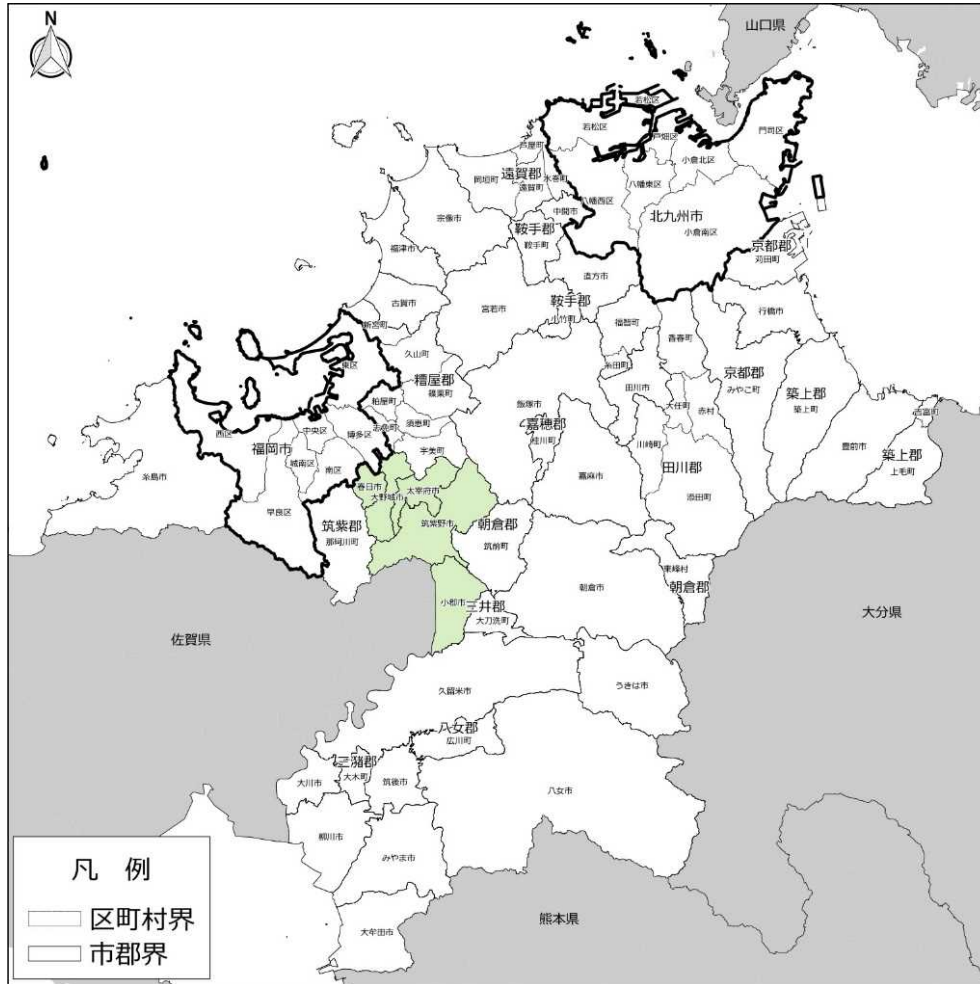
【テーマ:移動しやすいまちにするために必要なもの】



活用事例② 広域連携まちづくりの取組み

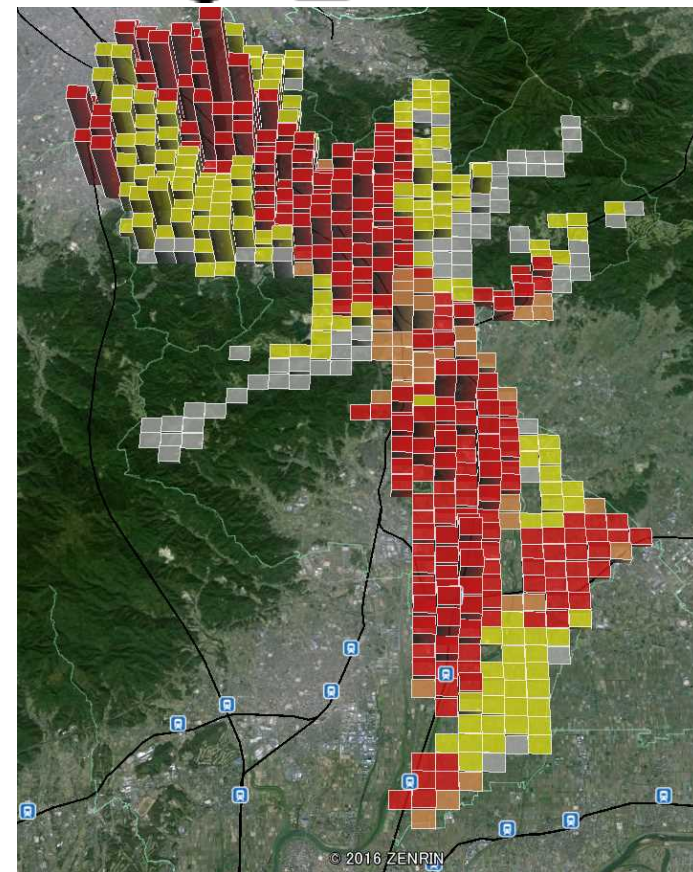
福岡市南部西鉄沿線圏域

○ 位置図



○ 都市構造可視化計画

■ 公共交通の居住地カバー状況



出典:都市構造可視化計画 (<https://mieruka.city/>)

活用事例② 広域連携まちづくりの取組み

福岡市南部西鉄沿線圏域

■ 会議の目的

福岡市の南側に位置し、2本の鉄道(西鉄とJR)によって福岡市との結びつきの強い地域です。高齢化の進展により公共交通の重要性が高まるなか、鉄道を活用した持続可能な都市の構築が課題

鉄道を軸として駅周辺に拠点を持つ各市において、人口減少・少子高齢化人口の進展に伴い都市機能の維持が難しくなる状況下では、**鉄道を活用したまちづくりが必要**

【対象市町】

(5市)
春日市、大野城市、
太宰府市、
筑紫野市、小郡市

【開催経緯】

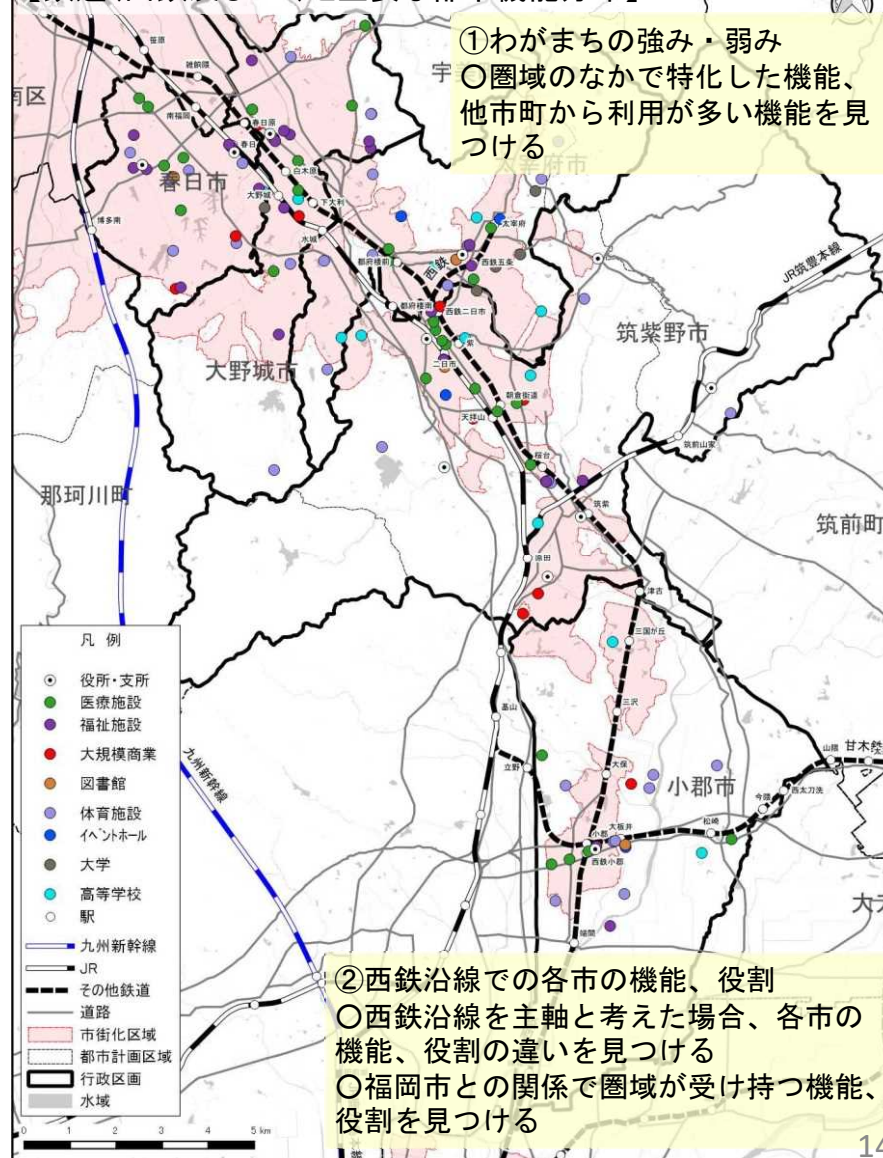
第1回 H28.1.14 (36名参加)
(討議テーマ案)
○わがまちの強み・弱みを見つける
○わがまちにほしい機能

■ 検討中のテーマ

【テーマ:わがまちの強み・弱み】

【テーマ:西鉄沿線での各市の機能、役割】

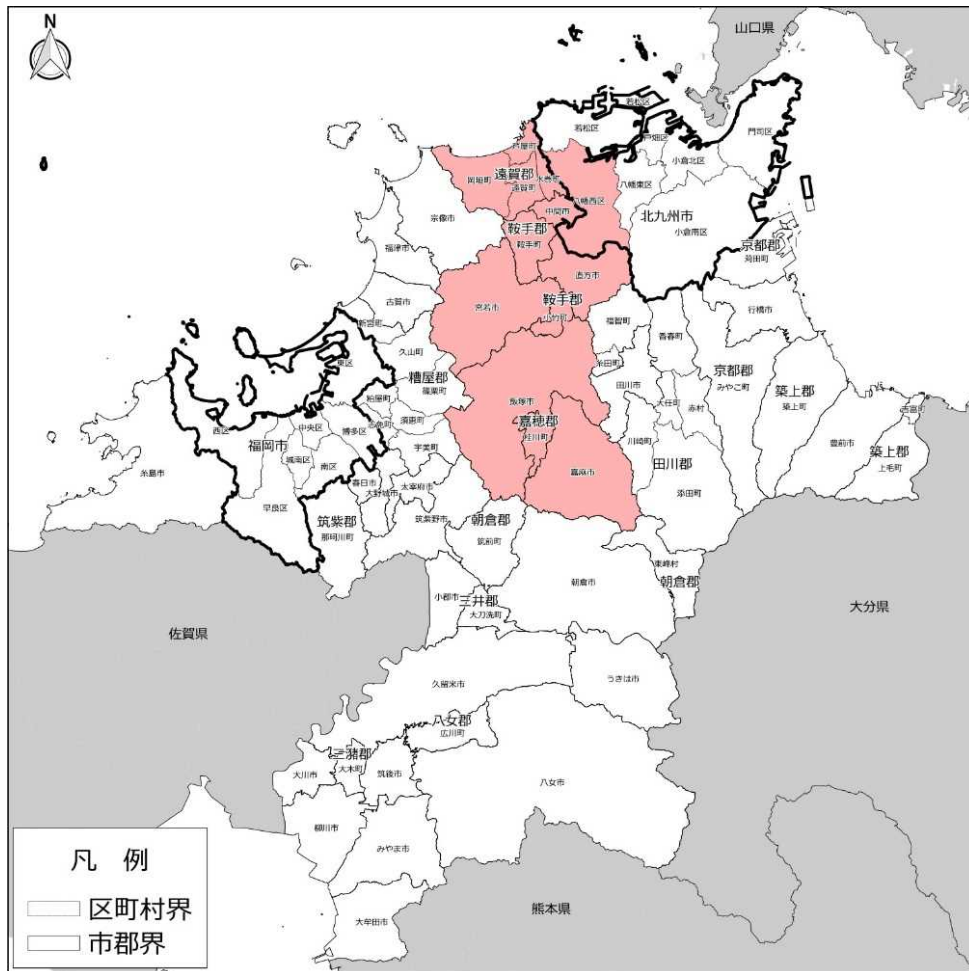
【鉄道(西鉄及びJR)と主要な都市機能分布】



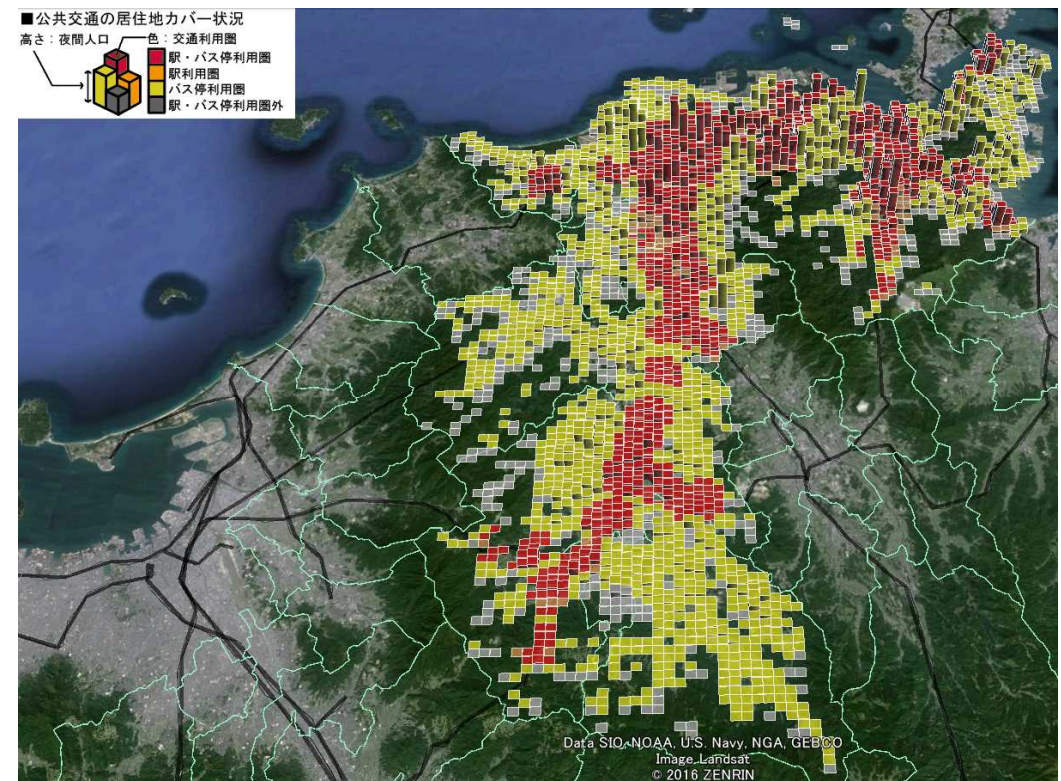
活用事例② 広域連携まちづくりの取組み

北九州、遠賀・中間、直方・鞍手、嘉飯圏域

○ 位置図



○ 都市構造可視化計画



活用事例② 広域連携まちづくりの取組み

北九州、遠賀・中間、直方・鞍手、嘉飯圏域

■ 会議の目的

圏域で人口減少が進む中で、個別自治体のみの取り組みには限界があり、周辺自治体との連携を見据えた上で、地域に適したコンパクトなまちづくりや立地適正化計画の策定を進めていく必要がある

住みやすい圏域づくりのために、都市関連施設と交通アクセスを組み合わせたまちづくりが必要

【着眼点：地域の現状に即して「地域活力の維持・向上」に必要な都市機能は何か？】

今後の具体プロジェクト（都市再生整備計画事業）への展開として、まちづくりのストーリー構築や都市分析結果の活用（目標設定等）

【対象市町】

（6市7町）
北九州市、飯塚市、
直方市、中間市、
宮若市、嘉麻市、
芦屋町、水巻町、
岡垣町、遠賀町、
小竹町、鞍手町、
桂川町

【開催経緯】

第1回 H27.2.4（37名参加）
第2回 H27.3.25（27名参加）
（討議テーマ）
○他市から見た強み弱み、広域施設、交通アクセス、高齢化・子育て対応施設
○都市関連施設、交通アクセスの追加分析

■ 主な問題提起

【テーマ：広域交通アクセス】

市民からの要望もある筑豊電気鉄道のJR直結が実現すれば八幡西区から福岡へ出ていき易くなる

福北ゆたか線で、北九州と福岡が切り換わるのは直方あたり

北九州市への移動にかかる時間を車と公共交通で比較すると公共交通は乗り換え等もあり、車の2倍以上の時間かかるため、市民の公共交通への支持が低い

若宮インター北九州市方面と福岡市方面の両方の出入り口になっているため、利便性が高い

桂川町や飯塚市からは福岡市の方が便利

市や町を越えたコミュニティバス必要

パークアンドライド（駐車場の整備）を進める

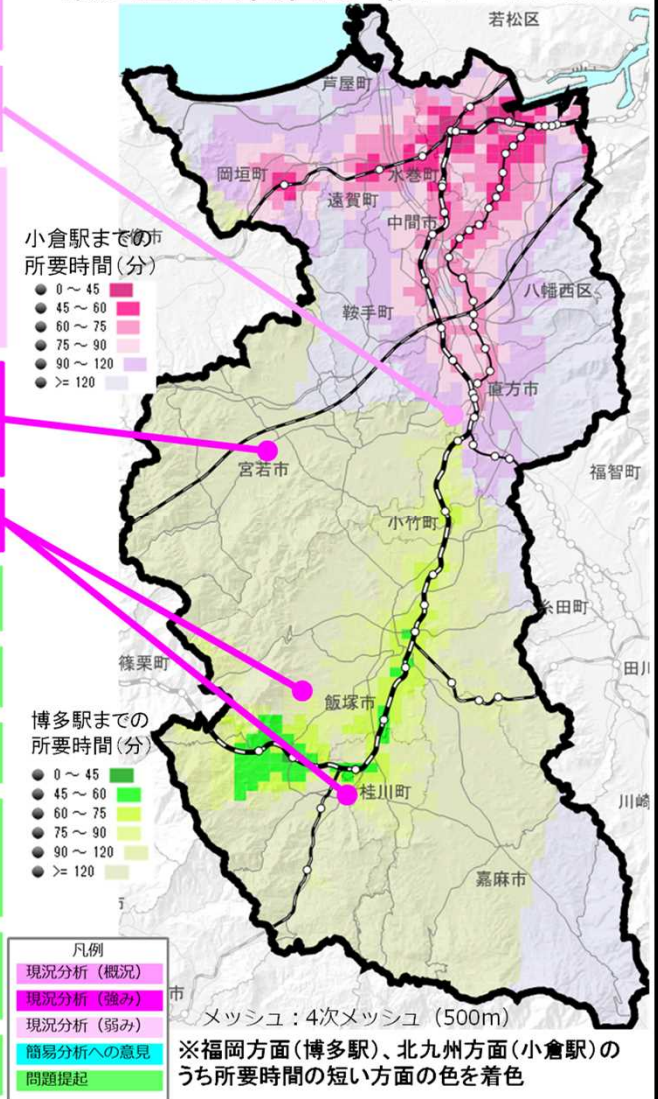
最寄り駅までの交通機能の強化が必要

主要駅までのアクセス方法・コミュニティバスの充実・タクシー券の配布・駅周辺の駐車場の整備

アクセス性向上のため、鉄道網を拡大したり、地下鉄を作る

鉄道駅を中心にコンパクト化を図る

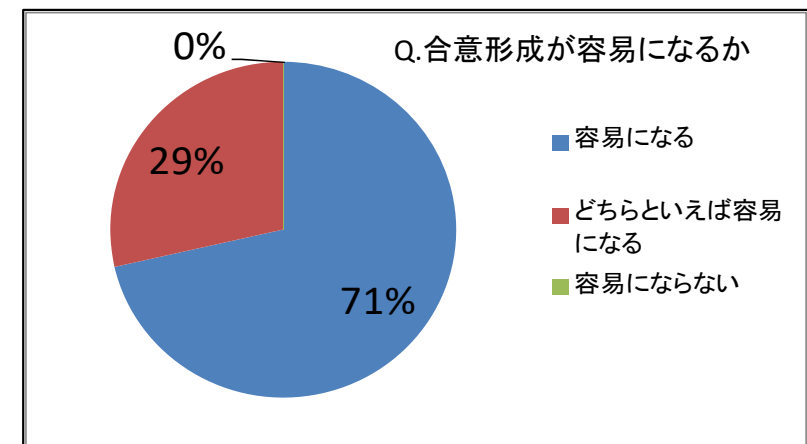
鉄道通勤時間圏域（福岡／北九州）



活用事例② 広域連携まちづくりの取り組み

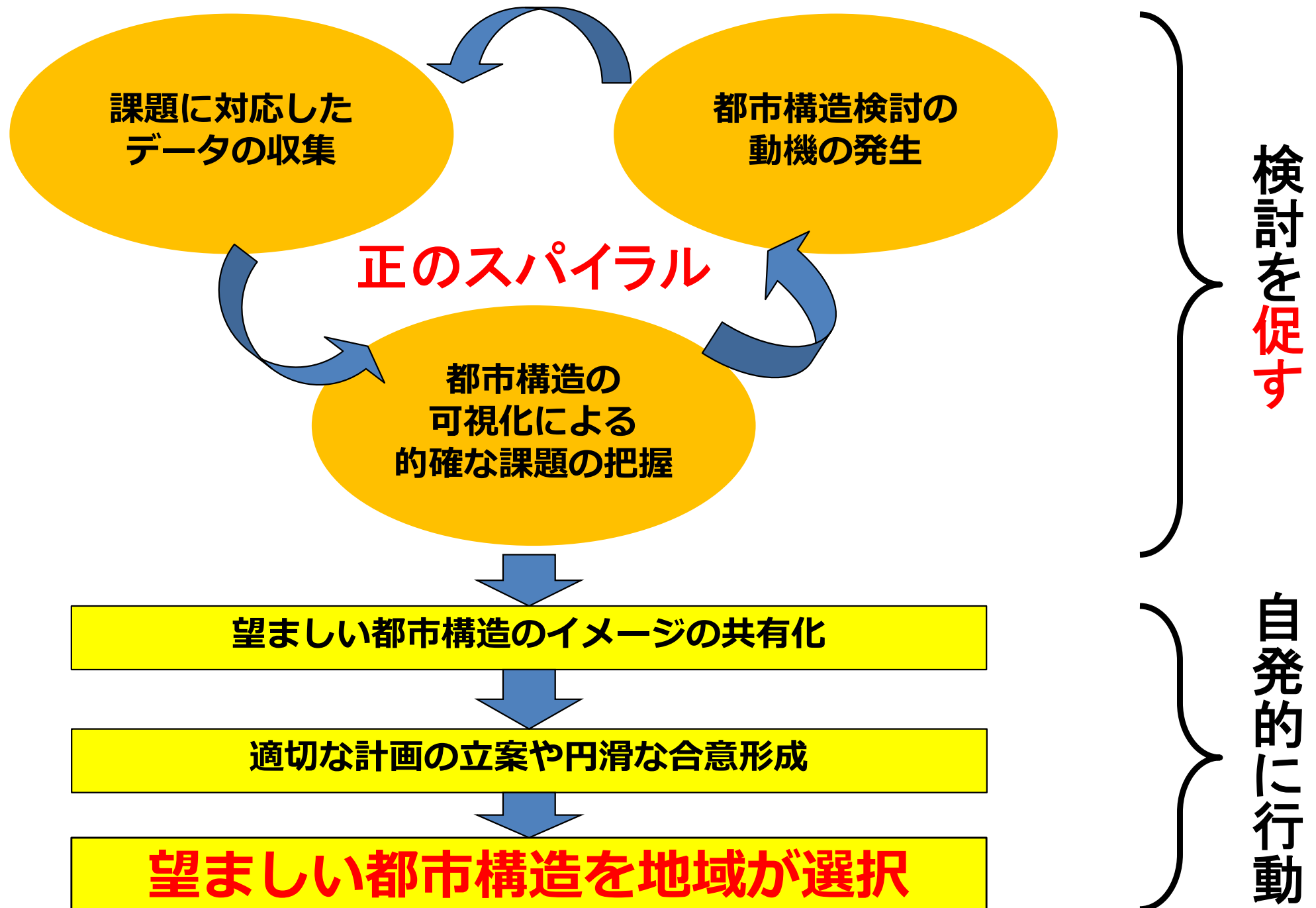
勉強会に参加した市町村職員の感想

- 市町間を超えるバスルートの充実の検討材料としたい。
(宗像市等)
- 日常生活圏の実態は、行政区域に縛られないと感じた。
(飯塚市等)
- 都市機能誘導区域を設定する場合は、広域的見地が必要と感じた。
(直方市等)
- 近隣の市町村の都市機能を知るいい機会になった。
(嘉麻市等)
- 首長や市民への説明に使いたい。
(多数)



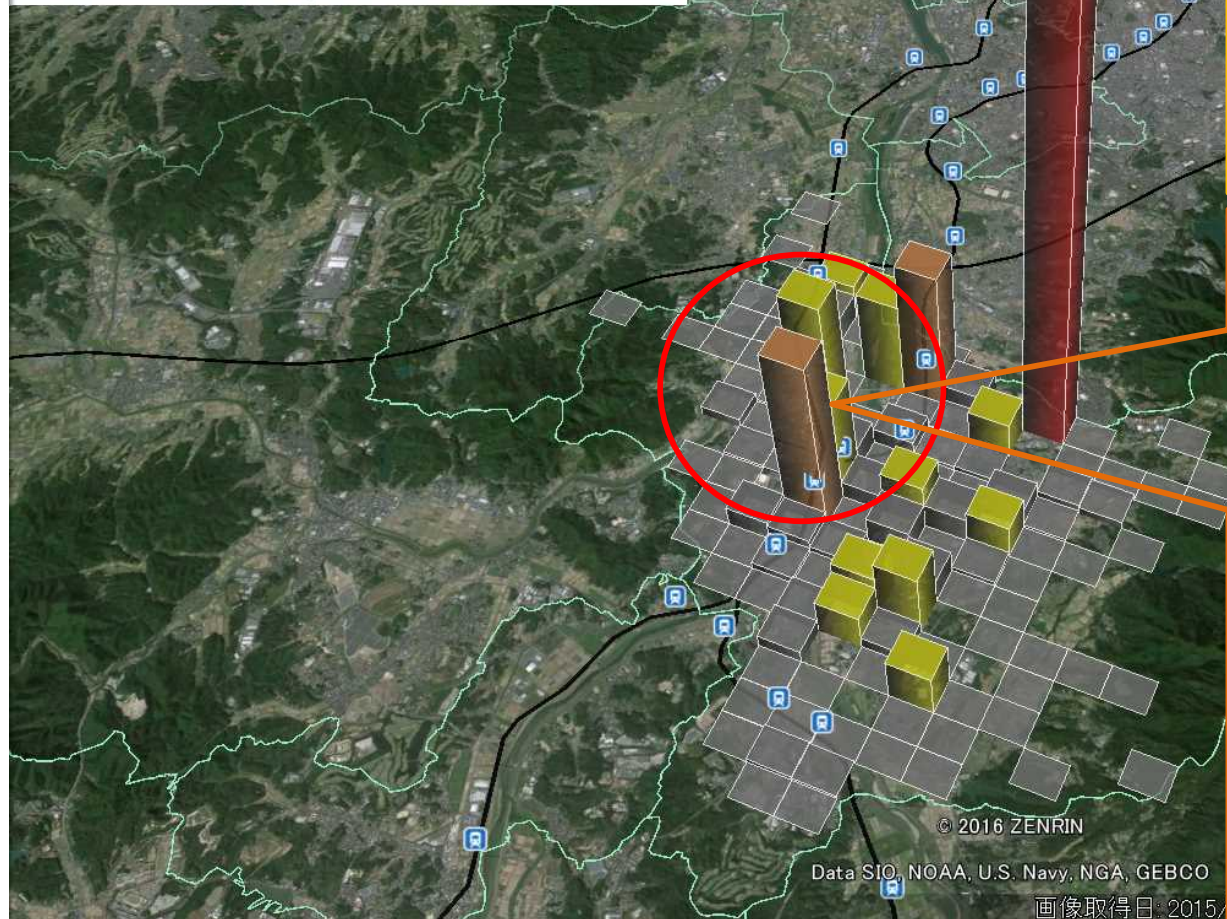
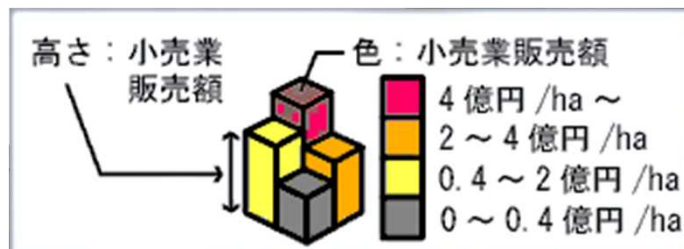
本サイトを活用した合意形成に関するアンケート

活用事例③ 望ましい都市構造を地域が選択



活用事例③ 望ましい都市構造を地域が選択

【直方市】



大型商業施設が立地



拠点である駅周辺の取り扱いが
論点
立地適正化計画策定
地域公共交通網形成計画策定



【小売業販売額(2007年)】

